

I 道路改良事業：一般国道 432 号 竹原バイパス

(1) 事業概要

- ① 事業箇所 竹原市下野町～新庄町
- ② 規模等 道路延長：4,300m 車道幅員：13.0m (全幅員：25.0m)
- ③ 全体事業費 7,100 百万円 (前回の再評価時と同額)
- ④ 工期 平成6年度～令和7年度 (前回の再評価時は平成6年度～令和2年度)

(2) 再評価の事由

前回の再評価後5年を経過した時点で継続中の事業であるため。

(3) 審議内容

① 事業の内容と必要性

一般国道 432 号は、竹原市を起点として、庄原市を経て島根県松江市に至る延長約 214 km の幹線道路であり、交通量は、平成 27 年度の道路交通センサスによれば、約 14,260 台/日である。特にこの路線は、竹原市内から一般国道 2 号や山陽自動車道河内 IC、また広島空港へアクセスする経路として利用されており、地域における重要な路線となっている。しかしながら、道路の交通容量と比較して交通量が多く、また賀茂川を横断する 2 つの橋の橋梁及び前後の線形が悪いこともあり、交通の混雑が著しく、この状況を解消する必要がある。

また、交通の円滑化や幹線道路として大規模災害時の緊急輸送道路としての機能の確保の観点からも、本事業の必要性は大きい。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査の人口を比較すると、竹原市の人口は、平成 22 年 28,644 人に対し、平成 27 年 26,426 人と減少傾向にあり、平成 27 年度の道路交通センサス約 14,260 台/日に対して、令和 12 年度の計画交通量が 11,100 台/日と交通量の減少が想定される状況となっている。

しかしながら、竹原市内から一般国道 2 号や山陽自動車道河内 IC、広島空港へアクセスする経路の重要性は高く、交通混雑の解消が必要だけでなく、広島県第一次緊急輸送道路（広島県緊急輸送道路ネットワーク）に位置づけられており、大規模災害時に救命活動・物資輸送などを迅速かつ確実に実施するための安全・安心の確保という、数値に現れない効果が期待され、本事業の必要性についての変化はないと判断する。

③ 進捗状況と今後の見通し

前回の再評価時と比較し、全体事業費に増減はない。事業の完了予定年度が前回の評価時の令和 2 年度から令和 7 年度に変わっているが、その理由は、相続や権利関係が複雑な事情から用地取得が難航するとともに、未取得の箇所が点在しており、工事の着工ができていないためである。

この点については、権利関係が複雑なものの、着実に用地取得に向けて動いており、今後は、計画的な進捗が図られるものと考えられる。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費に増減はない。費用便益比 B/C については、「費用便益分析マニュアル (H30.2 国土交通省道路局 都市・地域整備局)」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の 50 年間、社会的割引率を 4.0% とした結果、今回 B/C (総便益 (B) : 10,325 百万円、総費用 (C) : 9,745 百万円) は、1.1 と、前回から変更はない。

⑤ 地元からの要望

地元の竹原市からは、交通流動を円滑化し、物流、都市間交流を促進することで広域連携を強化し、大規模災害にも備えた、災害に強い活力ある豊かなまちづくりを進めるため、早期完成を要望されている。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

関係各位には、住民の理解を得て速やかに用地買収を終わらせて工事に着手し、予定としている令和7年度までに事業を完了させ、計画どおりの事業効果が得られるよう一層努力されたい。